

2011 年度報告書（研究員）

氏 名	川端浩平
職 位	GCOE 研究員
<p>研究概要</p> <p>自分が生まれ育った地方都市／ジモトのフィールドワークに基づいた質的研究を行った。ジモトというアプローチから、フィールドや専門領域を越境的に横断することを通じて&lt;不可視化されている&gt;フロンティアの実態を解明していくことを試みた。主に、以下の三つの方向性へと展開して研究調査を進めてきた。</p> <p>(1) 非集住的な環境で生活する在日コリアン、ホームレス、被差別部落の若者へのインタビュー調査をもとに、彼／彼女らの帰属意識の形成と差別・排除のリアリアティを明らかにすることを試みた。とりわけ、親密な領域における帰属意識の形成と私的領域における差別・排除の問題に着目した。</p> <p>(2) グローバリゼーションに対して掲げられる地元への包摂を促すマジョリティのとりくみ（まちづくりなど）が意図せざる結果としてもたらされる排除（例えばホームレスの人びと）と没個性化（名前が違うだけで同じ味がする饅頭やサブレから町並みまで）に関する考察を行った。</p> <p>(3) 地域研究としての日本研究（Japanese Studies）によって構築されてきた地域の文化やイメージを支えている本質主義的な理解に対して、フィールド調査を踏まえたトランスローカルな視点から問い直すことを試みた。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>■ 著書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『ジモトを歩く——親密な領域における他者性の行方』京都大学出版会（査読中）</li> </ul> <p>■ 論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「&lt;祖国&gt;で紡がれる在日物語——ソウルで生活する在日コリアンの若者の語りから」『京都エラスムス計画成果論文』、京都大学（全8頁）、2011年。</li> <li>・「不可視化されるマイノリティ性——ジモトの部落、在日コリアン、ホームレスの若者たちの研究調査をめぐる軌跡から」『解放社会学研究』25号、日本解放社会学会、2012年（掲載決定済み）。</li> </ul>	

・「二重の不可視化と日常の実践——非集住的環境で生活する在日コリアンのフィールドワークから」『社会学評論』250号、日本社会学会（特集「社会学理論とフィールドの互酬性」）、2012年（掲載決定済み）。

・“Liberated from stigma, fettered by freedom: A case study of young Zainichi Koreans living in my hometown” Futselaar, Ralf, and Buchheim, Eveline eds., *Race at War: The development of racial stereotypes in periods of Mass conflict*, Amsterdam University Press, 2012（掲載決定済み）。

#### ■ 報告

・"Transforming Representations of Ethnic Minority/Enclaves: A Case Study of Young Zainichi Koreans in a Regional City of Japan"、ユバスキュラ大学・京都大学共同ワークショップ、2011年5月（京都大学）。

・「ホームタウンのホームレス——安心・安全のまちづくりと二つの意図せざる結果」、京都大学 GCOE 日本語オムニバス講義、2011年6月（京都大学）。

・「ホームタウンのホームレスとゆるキャラ公共圏」、京都大学 GCOE コミュニティ・中間圏共同研究班研究会、2011年6月（京都大学）。

・「「外国人労働者」の／による／のための表象」カルチュラルタイフーン 2011"、2011年7月（神戸大学）【共同：Jupiter T.C. Chan, 石橋英之】

・「越境するジモト——ダイアログ岡山は何を目指すべきか」、朝鮮学校ダイアローグ——もうひとつのジモトの「風景」と「記憶」のアートプロジェクト、2011年9月（旧岡山朝鮮初中級学校）【共同：響田竜蔵、塩原良和、金泰植】

#### ■ その他

・「旧岡山朝鮮初中級学校を利用したアートと在日コリアンの記憶」、共在の場を考える研究会編『まちかどの記憶とその記録のために——神戸長田から／へ——』、2012年、92-93頁。